

1 もろもろの国のことについて預言者エレミヤに臨んだ主の
言葉。

2 エジプトの事、すなわちユフラテ川のほとりにあるカル
ケミンの近くにいるエジプトの王パロ・ネコの軍勢の
事について。これはエダの王ヨシャの子エホヤキムの
四年に、バビロンの王ネブカデレザルが撃ち破つたも
のである。その言葉は次のとおりである、

3 「大盾と小盾とを備え、進んで戦え。

4 騎兵よ、馬を戦車につなぎ、馬に乗れ。
かぶとをかぶつて立て。

5 私は見たが、何ゆえか彼らは恐れて退き、
その勇士たちは打ち敗られ、あわてて逃げて、
うしろを振り向くこともしない。――

6 恐れが彼らの周囲にあると主は言われる。
ほこをみがき、よろいを着よ。

7 足早き者も逃げることができず、
勇士ものがれることができない。

8 北の方、ユフラテ川のほとりで
彼らはつまずき倒れた。

9 あのナイル川のようにわきあがり、
川々のように、その水のさかまく者はだれか。

10 その水は川々のようにさかまく。
そしてこれは言う、私は上つて、地をおおい、
町々とそのうちに住む者を滅ぼそう。

11 9馬よ、進め、車よ、激しく走れ。
勇士よ、盾を取るエチオピヤびとと、アテビとよ、
弓を巧みに引くルデびとよ、進み出よ。

12 10その日は万軍の神、主の日であつて、
主があだを報いられる日、
その敵にあだをかえされる日だ。

13 彼らの叫びは地に満ちている。

14 勇士が勇士につまずいて、共に倒れたからである」。

13 バビロンの王ネブカデレザルが来て、エジプトの地を擊
とうとする事について、主が預言者エレミヤにお告げ
になった言葉。

14 「エジプトで宣べ、ミグドルで告げ示し、
またメンピスとタバネスに告げ示して言え、
堅く立つて、備えせよ、

15 「つるぎがあなたの周囲を、滅ぼし尽すからだ」。

16 なぜ、アピスはのがれたのか。
あなたの雄牛は、なぜ立たなかつたのか。

17 それは主がこれを倒されたからだ。

18 あなたに属する多くの兵は、つまずいて倒れた。
われわれは、しえたげる者のつるぎを避けて、
そして互に言つた、「立てよ、

19 われわれは、しえたげる者のつるぎを避けて、
われわれの民に帰り、故郷の地へ行こう」と。

20 エジプトに住む民よ、
捕われのために荷物を備えよ。

21 エジプトは美しい雌の子牛だ、
しかし北から、牛ばえが来て、それにとまつた。

22 彼らはふり返つて共に逃げ、立つことをしなかつた。
彼らの災難の日、その罰せられる時が来たからだ。

23 彼らは逃げ去るへびのような音をたてる。
その敵が軍勢を率いて彼に臨み、

きこりのよう、おのをもつて来るからだ。

24 彼らは彼の林がいかに入り込みがたくとも、
それを切り倒す。

25 彼らはいなごよりも多く、
数えがたいからであると、主は言われる。

26 北からくる民の手に渡される」。

27 24エジプトの娘ははずかしめを受け、
北からくる民の手に渡される」。

28 25万軍の主、イスラエルの神は言られた、「見よ、私はテ
ーベのアモンと、パロと、エジプトとその神々とその
王たち、すなわちパロと彼を頼む者とを罰する。

29 26私は彼らを、その命を求める者の手と、バビロンの王ネ
ブカデレザルの手と、その家来たちの手に渡す。その
後、エジプトは昔のように人の住む所となると、主は
言われる。

30 彼のしもベヤコブよ、恐れることはない、
イスラエルよ、驚くことはない。

31 見よ、私があなたを遠くから救い、
あなたの子孫をその捕え移された地から
救うからだ。

32 ヤコブは帰つてきて、おだやかに、安らかになり、
彼を恐れさせる者はない。

33 主は言われる、私のしもベヤコブよ、
恐れることはない、私が共にいるからだ。

34 私はあなたを追いやつた人々を
決して罰しないではおかないと」。



アメル.

ヘリシテ（アシケロン.ナザ.アント）

47

1 パロがまだガザを撃たなかつたころ、ペリシテびとの事について預言者エレミヤに臨んだ主の言葉。

2 「主はこう言われる、

見よ、水は北から起り、あふれ流れて、

この地と、そこにあるすべての物

その町と、その中に住む者とにあふれかかる。

その時、人々は叫び、この地に住む者はみな嘆く。

3 そのたくましい馬のひづめの踏み鳴らす音のため、

その車輪のとどろきのために、

父はその手が弱くなつて、

自分の子をも顧みない。

4 これは、ペリシテびとを滅ぼし尽し、

ツロとシドンに残つて助けをなす者を

ことごとく絶やす日が来るからである。

主はカフトルの海岸に残つている

ガザには髪をそることが始まつてゐる。

ペリシテびとを滅ぼされる。

アシケロンは滅びた。

アシケロンの民よ、

アナクびとの残りの民よ、

いつまで自分の身に傷つけるのか。

6 主のつるぎよ、

おまえはいつになれば静かになるのか。

おまえのさやに帰り、休んで静かにしておれ。

7 主がこれに命を下されたのだ、

どうして静かにしておれようか。

アシケロンと海岸の地を攻めることを

定められたのだ」。

ヤハの長子

シモン人女神アラスコ

(アニキヤ人)

↑

ベゼベリ

(ビシャンの王オグアセ
アラスコ)

[國語] (喜びまし)

48

力なし (高ぶり)

- モアブの事について、万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、「ああ、ネボはわざわいだ、これは滅ぼされた。キリヤタイムははずかしめられて取られ、とりでは、はずかしめられてこわされた。
- モアブの譽は、消え去つた。
ヘシボンで人々はモアブの害を図り、「さあ、この国を断ち滅ぼそう」という。
マデメンよ、おまえもまた滅ぼされる、つるぎがおまえを追う。
- 3 ホロナイトから叫び声が聞える、「荒廃と大いなる滅亡だ」という。
4 モアブは滅ぼされ、叫びはゾアルにまで聞える。
5 彼らは泣きながらルヒテの坂を登る。
彼らはホロナイトの下り坂で、「滅亡」の叫びを聞いたからだ。
- 6 逃げて、自分の身を救え、荒野の野ろばのようになれ。
7 おまえが、とりでと財宝とを頼みにしたので、またケモシは、その祭司とつかさたちと共に、捕えられて行く。
- 8 滅ぼす者はすべての町に来る、一つの町ものがれることができない。
谷は滅び、平地は荒される、主の言われたとおりである。
- 9 モアブに翼を与えて、飛び去らせよ。
その町々は荒れて、住む者はなくなる。
- 10 主のわざを行うことを怠る者はのろわれる。またそのつるぎを押えて血を流さない者はのろわれる。
- 11 モアブはその幼い時から安らかで、酒が、沈んだおりの上にとどまつて、器から器に、くみ移されなかつたように、捕え移されなかつたので、その味はなお存し、その香氣も変ることがない。
- 12 主は言われる、それゆえ見よ、私がこれを傾ける者どもをつかわす日が来る。彼らはこれを傾け、その器をあげ、そのかめを碎く。
- 13 その時モアブはケモシのために恥をかく。ちょうどイスラエルの家がその頼みとしたペテルのために恥をかくようになる。

高慢

- 21 さばきは高原の地に臨み、ホロン、ヤハズ、メバアテ、
22 デボン、ネボ、ベテ・デブラタイム、
23 キリヤタイム、ベテ・ガムル、ベテ・メオン、
24 ケリオテ、ボズラなどモアブの地のすべての町、遠いものにも近いものにも、臨んだ。
25 モアブは敗れて、恥をこうむっている。
モアブは滅ぼされたと告げよ。
- 逃げてくる男、のがれてくる女に尋ねて、「何が起つたのか」と言え。
26 モアブは敗れて、恥をこうむつて、アルノン川のほとりで、モアブは滅ぼされたと告げよ。
- 27 イスラエルはあなたの笑い草ではなかつたか。あなたが、彼のことを語るごとに首を振つたのは、彼が盜賊の中にいたとでもいうのか。
- 28 モアブに住む者よ、町を去つて岩の間に住め。谷の入口のかたわらに巣を作る。
- 29 われわれはモアブの高慢な事を聞いた、その高慢は、はなはだしい。
すなわち、その尊大、高慢、横柄、およびその心の高ぶりのことを聞いた。
- 30 主は言われる、私は彼の横着なのを知る、彼の自慢は偽りで、その行いも偽りである。



[國語] (喜びまし)

48

力なし (高ぶり)

- あなたがたはどうして「われわれは勇士だ。強い戦士だ」というのか。
モアブの主とその町々を滅ぼす者は上つて来、モアブのえり抜きの若者たちは下つて殺されたと万軍の主と名のる王が言われる。

モアブの災難は近づいている、その苦難はすみやかに来る。

16 モアブの城を滅ぼしたからだ。

17 すべてその周囲にある者よ、またその名を知る者よ、

彼のために嘆いて、

「ああ、強き笏、麗しきつえは、ついに折れた」と言え。

18 デボンに住む者よ、あなたがたの榮えを離れて下り、かわいた地に座せよ。

モアブを滅ぼす者があなたに攻めのばつて来て、あなたの城を滅ぼしたからだ。

19 アロエルに住む者よ、道のかたわらに立つて見張りし、

逃げてくる男、のがれてくる女に尋ねて、「何が起つたのか」と言え。

20 モアブは敗れて、恥をこうむつて、アルノン川のほとりで、モアブは滅ぼされたと告げよ。

嘆き悲しみ

48

31 それゆえ、私はモアブのために嘆き、モアブの全地のために呼ばわる。

キルヘレスの人々のために私は悲しむ。

32 シープマのぶどうの木よ、私はヤゼルのために泣くのにまさつて

おまえのために泣く。

おまえのつるは延びて海を越え、ヤゼルに及んだ。

おまえの夏の実と、その収穫を滅ぼす者が

襲つてきた。

33 喜びと楽しみは、実り多いモアブの地を去つた。

私は、ぶどうをしぶる所にも酒をなくした。

楽しく呼ばわつて、ぶどうを踏む者もなくなつた。

呼ばわつても、喜んで呼ばわる声ではない。

嘆き 悲しみ

48

日本文庫（挿入）

40 主はこう言われる、「見よ、敵はわしのように速く飛んできて、モアブに向かつて翼をのべる。」

モアブは滅ぼされて、國を成さないようになる。

41 町々は取られ、城は奪われる。

その日モアブの勇士の心は子を産む女の心のようになる。

42 モアブは滅ぼされて、國を成さないようになる。

主に敵して自ら誇ったからである。

43 主は言われる、「モアブに住む者よ、恐れと、穴と、わなとがあなたに臨んでいる。」

44 恐れをさけて逃げる者は穴におちいり、穴をよじ上つて出る者は、わなに捕えられる。

私がモアブに、その罰せられる年に、これらのものを臨ませるからであると

主は言われる。

45 逃げた者はヘシボンの陰に、力なく立ちどまる。ヘシボンから火が出、シボンの家から炎が出て、モアブの額、頸ぐ人々の頭の頂を焼いたからだ。

46 モアブよ、おまえはわざわいだ。

ケモシの民は滅びた。

おまえのむすこらは捕え移され、おまえの娘らも捕え行かれたからである。

47 しかし末の日に私は再びモアブを榮えさせると主は言われる」。

ここまでモアブのさばきの事をいつたのである。

34 ヘシボンとエレアレは叫ぶ。ヤハツに至るまで、ゾアルからホロナイトとエグラテ・シリシャに至るまで、彼らはその声をあげる。ニムリムの水も絶えたからである。

35 主は言われる、私は犠牲を高き所にささげ、香をその神にたく者をモアブのうちに滅ぼす。

36 それゆえ、私の心はモアブのために笛のように嘆き、私の心はキルヘレスの人々のために笛のように嘆く。彼らの獲た富が消えうせたからである。

37 人はみな髪をそり、皆ひげをそり、みな手に傷をつけ、腰に荒布を着ける。

38 モアブではどこかの屋根の上も、広場も、ただ悲しみに包まれている。これは、私が、だれもほしがらない器のようにモアブを碎いたからであると主は言われる。

39 ああ、モアブはついに滅びた。人々は嘆く。ああ、モアブは恥じて顔をそむけた。モアブはその周囲のすべての者の笑い草となり恐れとなつた」。



「偶像に(セムラバ)は滅びる。」

1 アンモンびとについて、
主はこう言われる、

「イスラエルには子がないのか、世襲がないのか。」

どうしてミルコムがガドを追い出して、

その民がその町々に住んでいるのか。

2 主は言われる、

それゆえ、見よ、アンモンびとのラバを攻める

戦いの叫びを、私が聞えさせる日が来る。

ラバは荒塚となり、その村々は火で焼かれる。

そのときイスラエルは自分を追い出した者ごとを

追い出すと主は言われる。

3 ヘシボンよ嘆け、アイは滅ぼされた。

ラバの娘たちよ呼ばわれ。

荒布を身にまとい、悲しんで、

まがきのうちを走りまわれ。

ミルコムとその祭司およびつかさが

共に捕え移されるからだ。

4 不信の娘よ、

あなたはなぜ自分の谷の事を誇るのか。

あなたは自分の富に寄り頼んで、

『だが私に攻めてくるものか』と言う。

5 主なる万軍の神は言われる、

見よ、私はあなたの上に恐れを臨ませる、

それはあなたの周囲の者から来る。

あなたは追われて、おののの直ちに他人に続き、

逃げる者を集めん人もない。

6 しかし、のちになつて、私はアンモンびとを再び榮えさせると、主は言われる」。

7 エドムの事について、万軍の主はこう言われる、「テマンには、もはや知恵がないのか。」

さとい者には計りごとがなくなつたのか。

その知恵は消えうせたのか。

逃げよ、のがれよ、深い所に隠れよ。

私がエサウの災難を彼の上に臨ませ、

彼を罰する時をこさせるからだ。

9 ぶどうを集める者があなたの所に来たならば、

すこしの実をも残さないであろうか。

夜、盗びとが来たならば、

自分たちの満足するだけ滅ぼさないであろうか。

10 しかし私はエサウを裸にし、

その隠れる所を現したので、

彼はその身を隠すことができない。

その子どもたちも、兄弟も、隣り人も滅ぼされる。

そして彼は、いなくなる。

11 あなたのみなしを残せ、

私がそれを生きながらえさせる。

あなたのやもめには、私に寄り頼ませよ」。

12 主はこう言われる、「もし、杯を飲むべきでない者もそれを飲まなければならなかつたとすれば、あなたは罰を免れることができようか。あなたは罰を免れない。

それを飲まなければならない。

13 主は言われる、私は自分をさして誓つた、ボズラは驚きとなり、ののしりとなり、荒れ地となり、のろいとなる。その町々は長く荒れ地となる」。

14 私は主からのおとずれを聞いた。

ひとりの使者がつかわされて万国に行き、

そして言つた、

「あなたがたは集まり、行つて彼を攻め、立つて戦え。」

15 見よ、私はあなたを万国のうちに小さい者とし、

人々のうちに卑しめられる者とする。

16 岩の割れ目に住み、山の高みを占める者よ、

あなたの恐ろしい事と、あなたの心の高ぶりが、

あなたを欺いた。

あなたは、私のように巣を高い所に作つてゐるが、

私はその所からあなたを取りおろすと

主は言われる。

17 エドムは恐れとなる。そのかたわらを通り過ぎる者はみな

な恐れ、その災のために、舌打ちする。

18 主は言われる、ソドムとゴモラとその隣の町々がくつがえされた時のよう、そこに住む人はなく、そこに宿る人もなくなる。

19 見よ、しげがヨルダンの密林から上つてきて、じょうぶな羊のおりを襲うように、私は、たちまち彼らをそこから逃げ走らせ、私の選ぶ者をその上に立てる。だれか私のような者があるであろうか。だれが私を呼びつけることができようか。どの牧者が私の前に立つことができようか。

20 それゆえ、エドムに対して主が立てた計りごと、テマニに住む者に対してしようとする事を聞くがよい。彼らの群れのうちの小さいものまでも皆、引かれて行く。彼らのおりのものもその終りを見て恐れる。

21 その倒れる音を聞いて、地は震い、彼らの叫び声は紅海にも聞える。

22 見よ、敵はわしのように上り、すみやかに飛びかけり、その翼をボズラの上に張り広げる。その日エドムの勇士の心は子を産む女の心のようになる」。



23 ダマスコの事について、
「ハマテとアルバデは、うろたえている、
彼らは悪いおとずれを聞いたからだ。

彼らは勇気を失い、

穢やかになることのできない海のように悩む。

24 ダマスコは弱り、身をめぐらして逃げた、

恐怖に襲われている。

穢やかになることのできない海のように悩む。

25 ああ、名ある町、楽しい町は捨てられる。

兵士はことごとく滅ぼされると

万軍の主は言われる。

27 私はダマスコの城壁の上に火を燃やし、
ベネハダデの宮殿を焼き尽す」。

都が滅びる。

28 バビロンの王ネブカデレザルが攻め撃つたケダルとハゾルの諸国のことについて、主はこう言われる、「立て、ケダルに向かつて進み、

東の人々を滅ぼせ。」

29 彼らの天幕と、その羊の群れとは取られ、

その垂幕とそのもろもろの器と、

らくだとは彼らの所から運び去られ、

人々は彼らに向かつて叫ぶ、

「恐ろしいことが四方にある」と。

30 主は言われる、ハゾルに住む者よ、
逃げよ、遠くさまよい行き、深い所に隠れよ。

バビロンの王ネブカデレザルが

あなたがたを攻める計りごとをめぐらし、

あなたがたを攻める計りごとをめぐらし、

あなたがたを攻める、てだてを設けたからだ。

31 主は言われる、

立つて進み、安全な所に住むきらくな民を攻めよ、

彼らは門もなく、貫の木もなく、ひとり離れて住む。

32 彼らのらくだは、ぶんどり物となり、

家畜の群れは奪われる。

私は、かの髪の毛のすみずみを切る者を

四方に散らし、

その災難を八方からこさせると主は言われる。

33 ハゾルは山犬のすまいとなり、
いつまでも荒れ地となつていて、

だれもそこに住む人はなく、

そこに宿る人もない」。

荒地となり
住む者なし

逃げよ ぶんどり物奪われ



エレミヤ書

(イラン)
エラムは他國に移り住む

49

34 ユダの王ゼデキヤの治世の初めのころに、エラムの事について預言者エレミヤに臨んだ主の言葉。

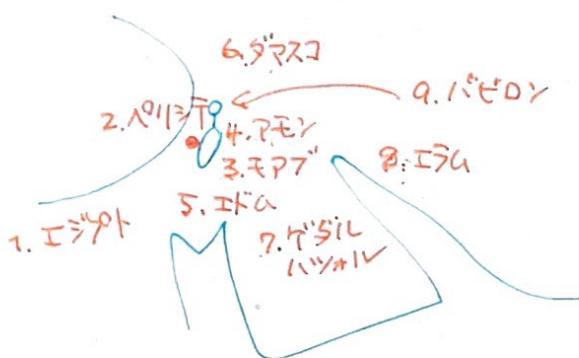
35 万軍の主はこう言われる、「見よ、私はエラムが力として頼んでいる弓を折る。」

36 私は天の四方から、四方の風をエラムにこさせ、彼らを四方の風に散らす。エラムから追い出される者の行かない国はない。

37 主は言われる、私はエラムをしてその敵の前、またその命を求める者の前に恐れさせる。私は災をくだし、激しい怒りをその上にくだす。彼らのうしろに、つるぎを送つて滅ぼし尽す。

38 そして私の位をエラムにすえ、王とつかさたちとを滅ぼすと主は言われる。

39 しかし末の日に、私はエラムを再び栄えさせると、主は言われる」。



エレミヤ25: 70年の後

